

令和7年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

第1学年

| 教科 | 指導上の課題の分析⇒ | 指導の在り方⇒ | 授業改善の視点 |
|----|---|---|---|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ○文章で書いて伝えることに課題が見られる。「は、を、へ」などの助詞の使い方、拗音・促音を正確に表記できない児童が多い。 ○話す、聞く力に個人差が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○短い文章や絵日記を書く活動などを日常的に取り入れる。 ○文章を書く際に、ひらがなやカタカナの書き方も繰り返し指導することで定着できるようにする。 ○自分の考えを言語化する場面を工夫する。 ○相手の話に反応したり、共通点や差異点を考えながら聞いたりすることを指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○文例を提示し、書き言葉に慣れさせる。また、文に表しやすい題材を提示したり、話し合う中で書く事柄を決めたりできるようにする。 ○ペア学習などの話し合いの場を多く設定する。自分の考えを表現する際に話型や手本を示したりすることで、抵抗感を減らして話し合い活動に取り組むことができるようにする。 |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> ○算数の学習に対して、意欲的に楽しく取り組む児童が多い。しかし、答えが分かっているにもかかわらずどうしてその答えになるのか説明が難しい児童がいる。 ○計算能力に個人差がある。数の概念と具体物が結びつかない児童がいる。 ○問題文を正しく読み取る力が弱い児童一定数いる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○説明するための語彙を増やしたり、説明する機会をつくらせたりして児童が自分の考えを伝え合う場面を多く作る。 ○児童の能力に合った課題を与えるようにする。 ○問題文を読むときに、分かっていることと尋ねていることがきちんと理解できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に即した課題を設定することによって、状況を把握しやすくし、説明ができるようにする。 ○苦手意識のある児童には、ブロックなどの半具体物を用いた活動を取り入れる。 ○問題文を3つの文でとらえさせて順を追って図に表していくことで、問題文を正しく読み取れるようにする。問題文から場面を図式化する活動を取り入れる。 |
| 生活 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの学校生活に多くの人が関わっていることを知る児童が多い一方で、どんな風にお世話になり、どんな仕事をしているのかを理解していない児童が多い。 ○身近な自然に触れ合おうとする思いはあるが、親しみを持ち、大切にしようとする意識があまりない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校たんけんを通して、学校生活を支える人々の中で、自分が話を聞いてみたい人を決めてインタビューをする。聞いてわかったこと、感じたことを自分なりに絵や文で表すようにする。 ○アサガオを育てる活動を通して、植物も生命があることに気付かせ、大切にしようとする気持ちをもたせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○どんな場面で誰にお世話になっているか教科横断的に学習する機会を作り、自分からすすんで挨拶をしたり、感謝の思いをもったりできるようにする。 ○植物や虫を育てる際、関連した本の読み聞かせなどを取り入れ、人間と同じように命をもって生きていることに気付かせる。 |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> ○器楽、特に鍵盤ハーモニカの技能に個人差が大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○器楽の常時活動や個別指導を取り入れ、継続的に技能の向上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ○指の体操やタンギングの練習などを常時活動として取り入れる。 ○グループでの教え合いや、スモールステップを意識した指導を行う。 |

| | | | |
|----|---|---|--|
| | ○歌唱の学習において、意欲的に取り組む児童が多い一方、周りの声を聴きながら合わせて歌うことができない児童がいる。 | ○聴き合いや発表などを通して、自分や周囲の音に関心が向くような工夫をする。 | ○グループでの発表や振り返りの場面を設定し、自分や友達の音楽を客観的に聴くことができるようにする。 |
| 図工 | ○製作活動に楽しんで取り組む児童が多くいるものの、技能面に個人差が見られる。 ○表現したいことを見付けることはできるが、表現の幅が狭く、作品例の真似から脱却できない児童がいる。 | ○はさみやのりの使い方、紙の折り方などを、ポイントを押さえて、継続的に指導する。 ○製作活動に入る前に、題材やテーマについて全体で考える時間を設け、発想を広げることができるようにする。 | ○道具の使い方について手本を示したり、デジタル教科書の動画を見せたりすることで、正しい使い方を身に付けさせる。 ○友達と作品を見合う中で、工夫したところを伝え合うことで、多角的によさを見付けたり、表現の幅を広げたりすることができるようにする。 |
| 体育 | ○体を動かす習慣が身に付いていない児童がいる。 ○楽しく遊び、規則を守り続けながら活動を行うことが難しい児童がいる。 | ○様々な運動遊びを通して、運動することの楽しさに親しみながら、多様な体の動きができるようにする。 ○分かりやすく見やすい規則を設定し、最後までみんなが楽しめる活動にする工夫をする。 | ○教具や場の設定を検討し、学習意欲が高まるように工夫する。 ○視覚的に見やすく理解しやすい規則になるよう、実態に合わせて工夫する。 |